

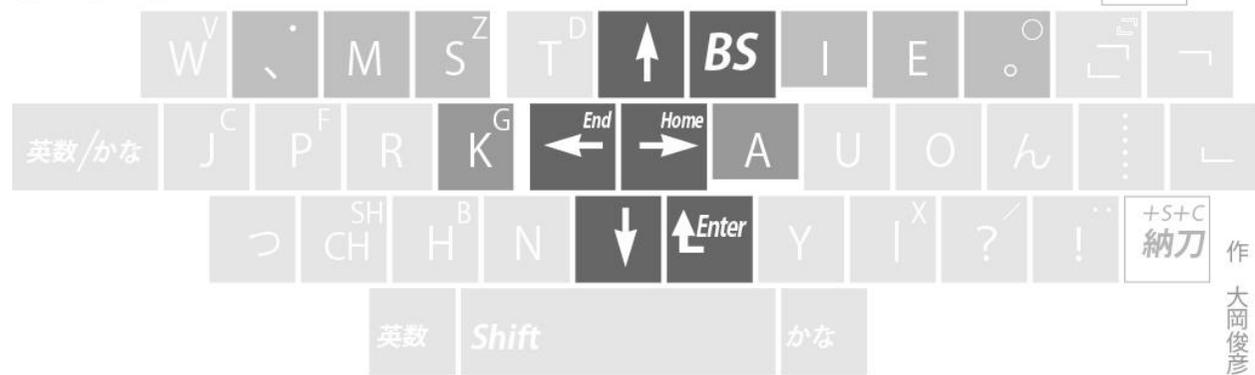
物語を書くための配列 **カタナ式**

作 大岡俊彦

+S+C
抜刀

+S+C
納刀

翼ホームポジション Ver.



カタナ式とは、小説や脚本などの「縦書きの物語文」に特化したキー配列です。

「カタナ」の由来は、「ホームポジションからすぐ打てる、和の言葉の代表」から。その目的は、「縦書き日本語の、合理的で快適で速い入力」です（横書き用は近日登場）。

ローマ字入力の場合、右手母音・左手子音（行段系左右交互打鍵）です。ローマ字は子音と母音が交互に現れるので、左右の手で交互に打った方が速いと言われます（左利き用も近日登場）。

最大の特長は、配列の中央にカーソル/エンター/バックスペースを置いたこと。「漢字の変換・確定（とリライト）までが入力の役割」と、入力全体の工程を射程に入れています。

また、キー配置が、「した」「する」「これ」「だから」「今日」「ない」「しかし」などの頻出語句に対して、左右の手のどちらかがアルペジオ打鍵（たとえば人差し指↓中指、薬指↓中指のようにタラシと隣の指で打てる高速打鍵。STやSRやKR、OUやAIなど）なのも特長です。

長編小説を書くときは、一日一万字入力することもざらです。小説家や脚本家の扱う大量の文字でも、疲れず、無駄な動きのない配列を目指しました。美しく、切れ味の良い刀こそが、物語の闇を切り裂く。

一、 基本的な使い方	2
二、 カタナ式仕様	7
三、 使用環境と導入法	9
四、 チュートリアル	11
付録1 各指の意識配分表	18
付録2 カタナ式シール	19
おまけ 先行方式との比較	21

一、 基本的な使い方

Windows 専用です。Windows 上で動くフリーのキー配列交換ソフト、Dvorakjで稼働しているからです。日本語を書くエディターは「word／縦書き」を想定していますが、ほかのものでも問題なく動くでしょう。なお横書きでは、「シフト＋カーソル」（文節の再指定）挙動がおかしくなるので、それを使わないか、近日登場のカタナ横式をお使いください。

Dvorakjは起動とともに使え、USBに入れて持ち運べるため、共用のパソコンでも使えるすぐれものです。つまりカタナ式は、起動とともに使え、持ち運べます。

また、デフォルトの配列（QWERTY 配列）に切り替える機能（納刀・カタナ式オフ）もあるので、困ったら元に戻る仕組みです。いつでもカタナ式オン（抜刀）して再開することも可能です。カタナ式は日本語の入力に特化しているので、英語入力は苦手です。縦書きの文章、とくに物語で、半角英語と同居することはレアと判断したからです。カタナ式オフ（納刀）→QWERTY 配列にいったん戻って英語入力→カタナ式オン（抜刀）がオススメです。（慣れてきたらカタナ式でも英語が打てるので、初期設定でQWERTYをオフにすると良いでしょう）

カタナ式は、以下のような人を使い手に想定しています。

縦書き日本語を日々大量に打つ人（小説家か脚本家でしょう）。

QWERTY 配列の不合理性に不満を持っている人。左右の小指が痛くなったり、手の運動量の多さが嫌な人。

乗り換え期間は一か月程度を見てください。あの、ややこしい、QWERTY 配列を覚えるよりは楽です。

さて、まずは作者の話から始めましょうか。

私は脚本家で、アマチュア小説家です。一日に二千字から一万字（推定）の文章を打ちます。脚本は一本約五万字、文庫一冊は約十万字の分量ですが、何度も書き直すのでもっと打ちます。しかるに現行パソコンのデフォルトキーボード、QWERTY 配列はこの要求に足りないと考えます。

最も使う「A」が左小指担当、リターンとBSが右小指の担当というのは不合理です。ホームポジションのFJを使わず、遠いキー（UIOなど）をよく使うので無駄な動きが多く、それだけ疲労します。カタナ式をつくった動機は、もっと合理的に楽に、つまり速く、日本語入力ができないかと思ったからです。僕のこれまでの何十万字の打鍵経験が、

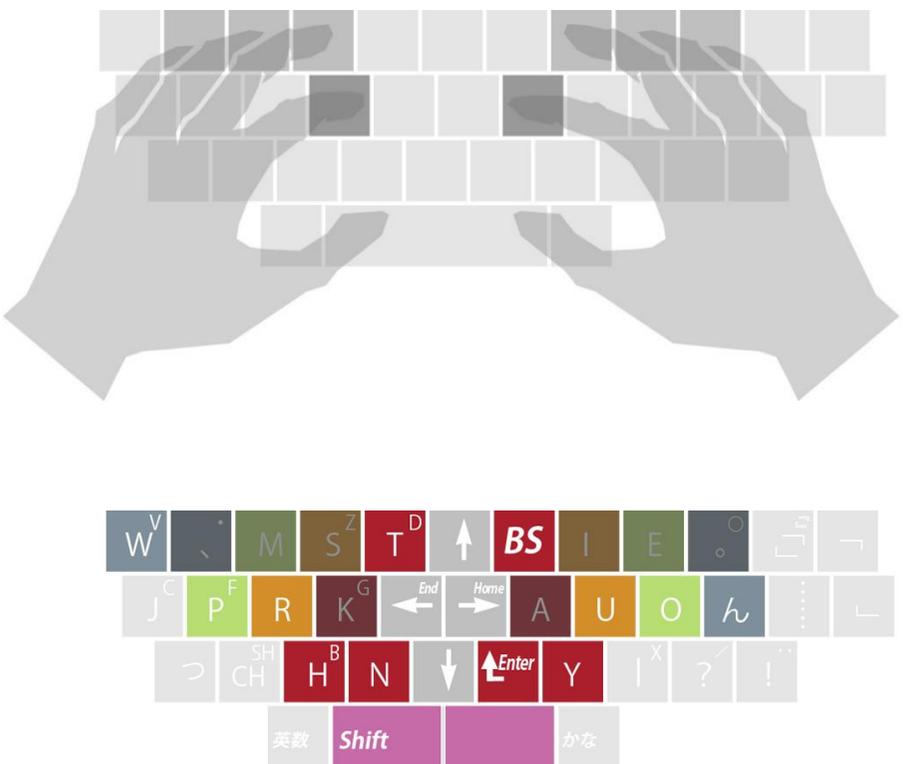
配列の根拠です。

- 右手は母音担当です。原初の音「A」の位置が人差し指です。漢字変換やひらがな無変換時に頻出の「エンター」、試行錯誤用の「バックスペース（以下BS）」も人差し指で押します。「ん」や拗音も広義の母音と考えます。無言「……」、長音「ー」、記号「」（カギカッコ開く閉じる「文字戻る」）「〇」（シーン先頭記号）「？」「！」なども右手担当です。「ことばを開いたり閉じたりする」イメージです。
- 中央の十字キーはカーソル移動にも使いますが、変換候補の選択（左右）や、変換時の文節移動（上下）、文節の再指定（シフト上下）に使うのがメインです。
- 左手は子音担当です。特徴的なのは濁音で、シフト操作で入力することになっています（濁音シフト）。これにより左手の担当キーが減り、主要6キー（TKNHSR）で八十二%の子音頻度をカバー。
- スペースキーに特徴があり、押しっぱなしだとシフトキーがわりになります。
- 人差し指はよく使うもの、中指は次点で使うもの、薬指・小指はレアものです。親指は変換（右手推奨）と濁音シフト（左手推奨）です。
- 左右小指が句読点です。小指で締める（刀を持つ）イメージです。



カタナ式は、独自のホームポジションを提案します。

FJ位置に人差し指を置くところまでは同じで、それを中心に両肘・両掌をハの字に開いたポジションです。指の形から、翼ホームポジションと命名しました。すべてのキー配置や運指は、これを基準に考えられています。



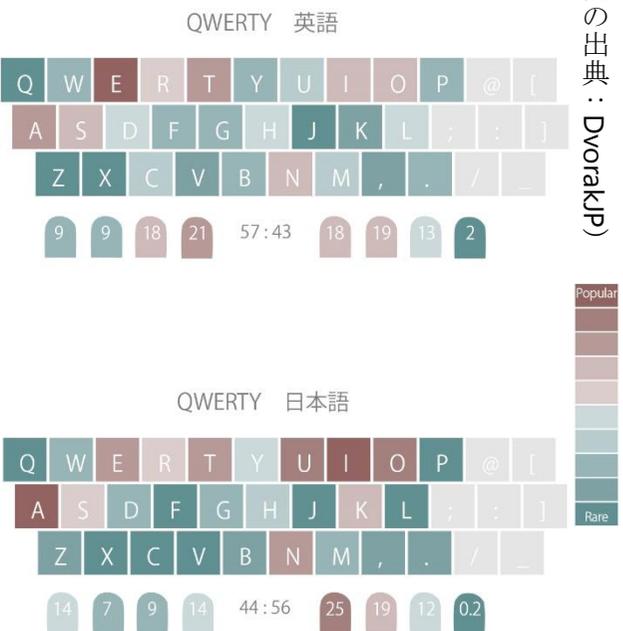
八指を水平一直線に構える従来のホームポジションは、独立に指を動かせるように訓練された、ピアノストやタイピストのものだと思います。私たちは作家です。ペン一本で世の中に攻め込む人生です。出来ればペンで書くときにように、右手人差し指だけを使ったのです。紙を左手で押さえ、右手のペンで書くとき、あなたの両腕と指は自然にどうなっていますか？ 正面に対して四十五度、ハの字になっているはず。この形が基準です。手の構造を見ます。中指・薬指・小指の指先を同一直線状に使うとき、最も器用な人差し指だけが短く、別の角度を向きます（この短さ、角度が人差し指の器用さの正体です）。この指の形で自然に置いたものがホームです。つまり、三指が直線で、人差し指は一段下。内側の指ほど多くの役割を負わせ、外側の指ほど頻度の低いものを担当させます。

なお QWERTY キーボードは、左右対称ではないことはご存知でしょうか。二段目と三段目のずれ（1／2ピッチ）と、一段目と二段目のずれ（1／4ピッチ）が異なることを

ご確認ください。これはタイプライター時代の、三段についてのアームがぶつからない為の工夫なのだそうです（百年前の名残がまだ！）。このため、左右の手の形や指使いは原理的に左右非対称になるのです（本式では右手母音・左手子音と役割が違う為、さほど気になりませんが）。

次に、QWERTY 配列 / Dvorak 配列 / カタナ式の頻度比較を示します。

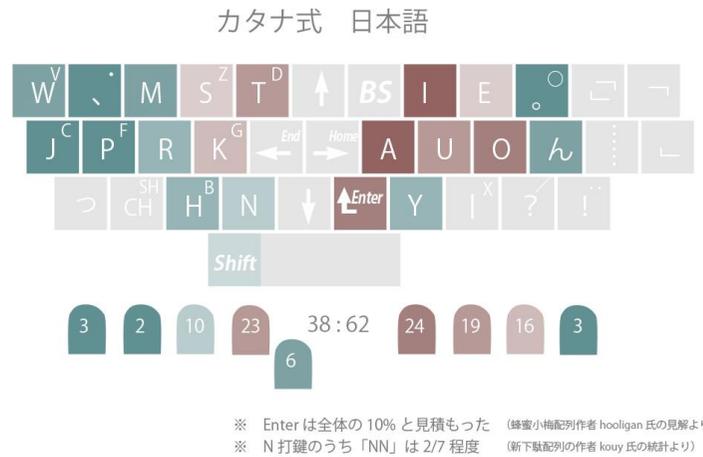
（頻度の出典：DvorakJP）



アルファベットの出現頻度は各言語で異なります。QWERTY 配列は、（横一直線の）ホームポジションキーが殆ど使われず、あちこちに指が飛ぶ、無駄の多い配列です。日本語では、左手小指の負担が大きいことも読み取れます。

Dvorak 配列は、QWERTY を改善するためアメリカで考案されたもので、タイピストの

記録を持つことで知られます。英語入力では確かに中段に頻出文字がまとまり、改善がきらかです。しかし日本語では、(英語では頻度の低かった)母音を左手にまとめたことが仇となり、左手酷使配列となってしまうています。(これを左右反転すればいいのでは、と誰もが思い、右手母音左手子音の系列が量産されたのでしょ)



本式です。頻度の高いものが中央に来ることが一目瞭然です(なお、エンターの頻度は十パーセント程度と見積もっています。BSとカーソルは統計がありませんが、数字を取れば上位に来ると予測されます)。右手の使用率が高く(6:4)、どちらの手も人差し指と中指が主で、薬指小指の負担が小さいことも分ります。左右の手の器用さ、指の器用さの直感に近い使用頻度分布になっていると思います。

またこれは、単打の統計です。言葉は流れ。ある文字の後に何が来やすいか(nグラム頻度)、ということも考慮するべきです。カタナ式は、流れとして打った時に気持ちいい(左右にアルペジオ打鍵が多い)配列の特徴を持っています。

次の二章では、詳細な仕様を説明します。マニュアル代わりにご使用ください。

三章では、インストールと設定の仕方を説明します。

使いながら覚えたい方は、四章に詳細なチュートリアルを用意したのでご活用ください。

記号

句読点「、」「。」「？」「！」「〜」「」（カギカッコ開く閉じ一文字戻る）、「……」（三点リーダー二文字）、ナカグロ「・」、シーン先頭記号マル「○」など。

濁音シフト逆順機能

「スペース（押したまま）＋K＋A」で「が」だが、スペースが遅れて、「K＋スペース（押したまま）＋A」とタイプしても「が」になる仕様。すべての濁音、濁拗音で。

● カタナ式で出来ないこと

「縦書きの日本語文章、特に物語」がカタナ式の想定文章です。便利さのために犠牲になった機能があります。いずれも縦書きではレアケースと判断しました。

半角英数

縦書きと半角英数と同居することはレアです。「英数キーで元のQWERTY配列に戻る」設定は、カタナ式で英語を打つことを想定していないからです。従って、QWERTY前提で出来た日本語入力のうち以下の事ができません。それぞれ対処法を示しておきます。

全角アルファベット

子音なら、一文字打って変換。
母音は「エー」などの読みから変換。

大文字アルファベット

シフトを濁音に割いたため不可。変換で対応。またはカタナ式オフ（納刀）↓QWERTYから入力↓カタナ式オン（抜刀）。

ないアルファベット

Q、L。ローマ字入力には使わない為。これも右同様。
＋＊@、；など。これも右同様。

一部の記号入力

カタカナ直接入力

出来ないので、ひらがな入力後、変換（単語程度ならIMEが変換してくれる）のこと。

三、 使用環境と導入法

Windows／日本語変換 IME／QWERTY キーボードを想定。

キー配列変更アプリ Dvorakj 上で動いています。

(Dvorakj が Windows 専用なので。Mac のみなさんごめんなさい)

縦書き専用です。横書きはカーソル移動の挙動が一部おかしいです(カーソル機能を書き換えた、カタナ横式もリリース予定)。

なお、Dvorakj はコピーしてダブルクリックするだけで使え(起動時に自動起動にも出来る)、USB などに入れて持ち運べるキー配列変更ソフトです。複数のパソコン(共用、出先など)で同じ設定を利用できる優れものです。

Dvorakj とカタナ式をダウンロードし、以下のように設定します。

Dvtrakj: blechmusik.xii.jp/dvorakj

カタナ式: カタナ式.txt

登場人物表見本: てんぐ探偵人物表.txt (Fn キーに登場人物名を割り当てる設定ファイルです。ここに書き換えてご利用ください)

- 1 Dvorakj を置く場所を決めてください。Windows なら c:ドライブ上、USB なら最上層かな。

- 2 起動し、設定を以下のようにいじります(一度設定すれば、毎回同設定を読み込む)。

入力全般

Sands なび 「Sands: [Space]に[Shift]の機能も担わせる」……オン

IME 関連 「IME の状態の変更(直接入力と日本語入力の切り替え)」

……[Ctrl]+[Space]を、オン

修飾キー関連 「修飾キーを押し下げている場合に QWERTY 配列を使用する」……オン

日本語入力 設定ファイル……Dvorakj フォルダの中の user の中に「カタナ式.txt」を入れ、それを選択

「日本語入力の設定／日本語入力配列を日本語入力時のみ使用する」……オン

「[Shift]+[文字]のとき／未設定のときには何も発行しない」…

…オン

単一キー

[Esc]など [Caps Lock] 直接入力時 …… 「日本語入力にする」

日本語入力時 …… 「直接入力にする」

[無変換]など [無変換] 直接入力時 …… 「直接入力にする」

日本語入力時 …… 「直接入力にする」

[変換] 直接入力時 …… 「日本語入力にする」

日本語入力時 …… 「日本語入力にする」

ファンクションキー 「独自のファンクションキー」 …… オン

この設定を利用して、登場人物名をファンクションキーに登録できます。

user フォルダ下に「てんぐ探偵人物表.txt」を置き、選択。ファイル名も内容も自由に書き換えてください。

その他

起動時の設定 ログオン時に Dvorak を起動する …… オン

Dvorak 起動時に設定画面を最小化する …… オン

ホットキー Dvorak 用のホットキーを有効にする …… オン

実行を停止する C (全て半角。大文字 C、ハイフン、アンダースコア)

実行を再開する C (同、半角ニヨロ)

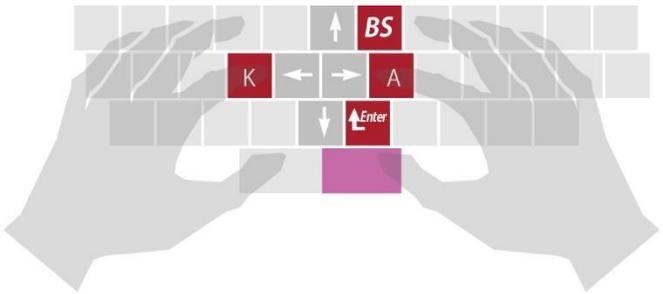
3 ワードなどを立ち上げ、原稿を縦書き設定にしてお使い下さい。

また、この Dvorak フォルダを丸ごと USB に入れば、カタナ式を持ち運び、任意のパソコン上で使え、かつ USB を抜けば元通り。

4 登場人物表は、長編を書くのに有用です。ファイルを複数作れば、複数を同時進行で書けます (順次、コピーなどしてファイルを増やし、ファンクションキーに設定してください)。

2 変換しよう！

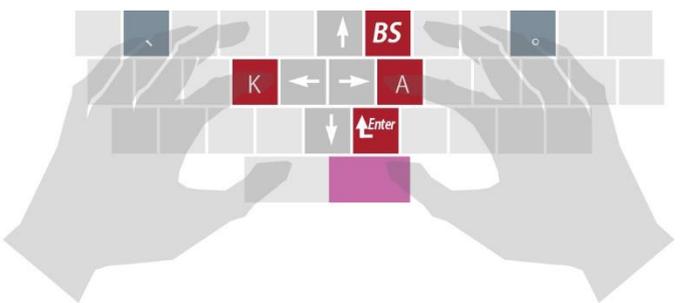
スペース（後々のことを考えて右親指）で変換、矢印で選択、リターンで確定して下さい。シフト上下で文節を再指定できます。



例題

阿 亜 赤 カカア
悪化 閣下 カツカツカ

3 人差し指と小指を固定しよう！



右手小指の「。」、

左手小指の「」」を覚えて下さい。

両小指が、文の構造を決める句読点の担当です。

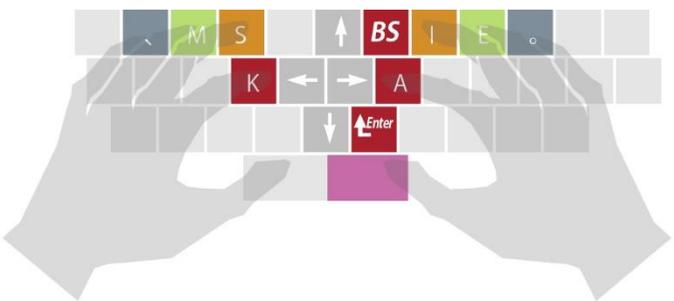
例題

あ、悪化。

ああ、かかあ。

4 翼ホームポジションへ！

いよいよホームポジションです。人差し指と中指の二指を意識すると、指の位置が決まりやすいですよ。



例題

愛 えい ええいああ。

柿、夏期。決起、結果、経過、成果。

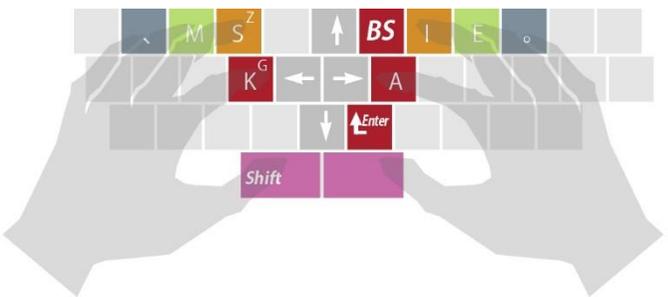
坂、様、さかさま。

(以後、「し」は「S」で打つのが推奨です)

四季、景色囃みしめ。

薪、メカ軋み。

6 濁音シフト



濁音に挑戦してください。左親指は濁音シフト／右親指は変換、のように左右の親指で役割を変えると混乱しません。

また、「が」なら、「スペース押しっぱ↓K↓A」でも、「K↓スペース押しっぱ↓A」でもいけます。勿論普通のシフトキーでもOKです。

例題

が 蛾 ガガ 爺い さめざめ じかまき

(「じ」も同様に「Z」推奨)

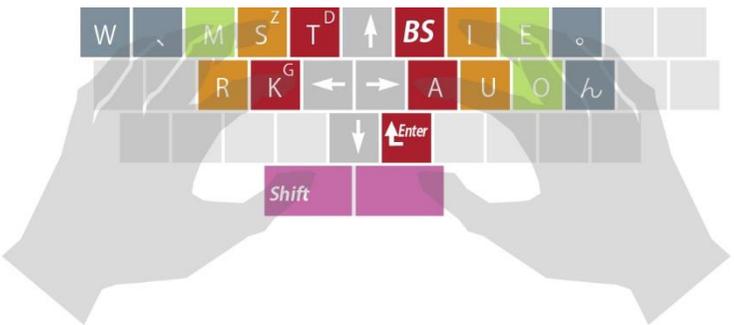
耳が蝉。ゼミが地味。

7 二段に！

二段目を増やします。左手（子音）がT（D）、R、一段目にW。右手（母音）がU、O、「ん」です。右手に五母音が揃いました。俄然、日本語っぽくなります。小指の役割は、常に「端っこ」（W、「ん、ん、」）と覚えてください。

例題

体型 立つ瀬 どうした。賃貸（ち）は推奨（闘争 構想 放送 妄想 労働 それがどうした。 単語 感想 選考 禅問答 連絡 留守電 忘れた。私、痴漢。私、変態。そこをそうした。そうだ、だがしかし。労働が壮絶。労災下りるわ。その女は、下品な香りがした。そういうこと多いんだ。ぞっとしたろう。だんだん簡単。まだすることがある。例外がズルをする。もう一度会いたい、無言電話同士。世界が変わった、いいことがあります。



8 三段目！

三段目は、メジャー系は人差し指しか使いません。左手人差し指にN、H（B）。右手人差し指にY。

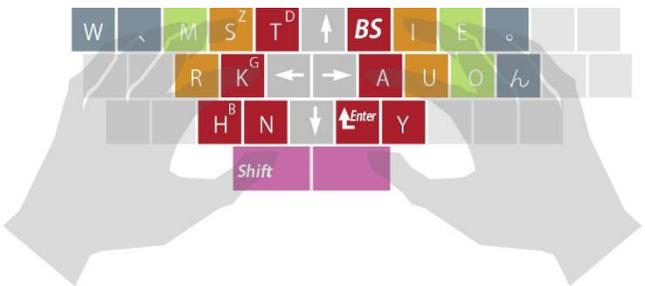
これでP以外の日本語がすべて打てることになります。

なお、内側二列の六子音キー（TKNSRH、および濁音シフトでDGZB）だけで、日本語子音頻度の八十二%がカバーできる計算です。

注目すべきは右手のY位置です。YAはやや打ちにくいのですが、それ以外の拗音、たとえば「きょう」「ぎょう」「きゅう」「りゅう」「にゅう」「ひゅう」「みょう」などの多くがアルペジオ打鍵可能です。アルペジオ打鍵とは、たとえば薬指↓中指（m）や人差し指↓中指（n）など片手の隣の指でタランと打てる打鍵の仕方を行います。打ちやすく高速打鍵可能なことで知られます。ほかに、頻出二重母音「おう」「えい」「あい」がアルペ

ジョ打鍵可能なことが、カタナ式配列の強みです。

「しょう」「ちよう」「じよう」などは「syou」「tyou」「zyou」が速いです。



例題

ヨロシク、哀愁。

やはり僕は、ここにはならない。こんなこととしてもしようがないのよ。ガツとやっちゃいましよう。今日明日で、なんでもかんでも、暴利をむさぼりやがって。この刀はお守り代わりになるから、後生大事に取っておくんだ。今日こそ、挑戦的表現を習得するのだ。脈がない、奇妙だ。象徴天皇制に懐疑的。

9 マイナー子音など

P (シフトでF)、CH (シフトでSH)、「っ」、V (シフトW)、J (シフトでC)、「ー」を導入。

半濁音、外来語系子音を打ちましょう。「っ」は子音ふたつでは打ちにくい促音(「あっ」など)の時に活用ください。長音「ー」のシフトにXがあるので「あ」などの入力に使うて下さい。「・」は区切りのイメージでシフト「」です。



例題

ポーカーフェイスのジョーカーと呼ばれた男は、ポーズを気取った。

あつ、チョークスリーパー・ホールド。ちやうちやう、あれはしょうもない冗談やったんや。ワレ、ペーペーの癖に、パジャマで何しとる。プー太郎、ハックルベリー・フィンの大冒険。そんなん知るか、ヴォケエ！
バック・トウ・ザ・フューチャー。リバー・ランズ・スルー・イット。

あとは、ご自由に！

これまで出て来たものだけで、基本的な文章作成は出来るでしょう。残りのキーやシフトにバインドされたものなどは、都度覚えていくと良いと思います。

つい癖で一直線のホームポジションになりがちですが、なるべく翼ホームポジションを守りましょう。左手は人差し指と中指（SK）を守り、右手は薬指と小指（「え」「」）を守るとうまいみたいです。QWERTY キーボードは左右対称でないことを思い出して下さい。固定する指もそれぞれ違います。SKはキーの右端、AIはキーの下端に触っておくと、両肘がハの字になりやすいです。

各指の意識配分は付録をご覧ください。その配分表やマニュアル表紙を持ち歩いたりして、イメトレすると良いですよ。

以後のオススメの練習法は、俳句や短歌を打ったり、好きな歌の歌詞を打つことです。

日本語として自然な言葉の組み合わせが、短く、沢山出てくるからです（英語頻出する歌は避けましょう。笑）。長文に挑戦したくなったら、自分の過去原稿を打ってみるのも良いです。自分のボキャブラリーだとやりやすいです。

キーボードがない時でも、たとえば電車の中でも、目についたポスターの言葉をとっさに打つイメトレなんてとてもいいですよ！

リズムのコツは、QWERTY ローマ字のダララ、ダララララ……ッターン！と指が忙しい（けど文字数はあまり進まない）感じではなく、一文字打つのに二鍵「たた」と押して、それが「たたたたたた……」と淡々と続く、忍び足のリズムです（濁音、二重母音、変換確定でリズムが変わります）。

そのうち「音単位」では、元の QWERTY と遜色ないスピードで打てるようになるでしょう。その先は、「言葉単位」「文章の流れ」で運指を覚える段階です。意識より先に、指が先回りするようになったらスピードが本格的になるでしょう。そもそもそうやって、QWERTY をマスターしたことを思い出して下さい。

いよいよ実戦投入の時間です。自分の思う文章をひたすら打つことです。いきなり原稿執筆だとハードルが高いので、プロットや短文メール、思ったことのメモやブログなどをカタナ式で書いていきしょう。「自分の中から出て来た言葉を打つ」のが一番いい経験になります。

カタナ式のいいところは、日本語でよく出てくる言葉の中に、打ちやすい言葉が多いこ

とです。たとえば……

する した ない こと それ そこ これ です
だが だから だがしかし ほら 空 ところ 知らない
したから がない どうせ 流れ 知った 魚 探して たしかに 殺す
他の事 さもありなん あるのです 華がある

(子音がアルペジオないし同指隣キーになっている)

そうこうしているうちに 可能性 声帯 生命 完了

(更に二重母音もアルペジオになっている)

「おう」「うう」「よう」「ゆう」「あい」「えい」を含む多くの二字熟語

(母音部がアルペジオになっている)

など、母音部だけでなく、子音部の左手が気持ちいい流れのときが多いです。子音部の配置は、それも考慮されています。同じ歌詞を、母音部だけ打ってみたり、子音部だけ打ってみたりする、分解練習もなかなかオススメ。

理想は、思うスピードで打てること。次善は、ゆっくり喋るスピードで打てること。「書く事」とは、そういうこと。

付録1 各指の意識配分表

翼ホームポジションからの各指の意識配分です。円で囲ったものは、その面積が出現頻度に比例しています（太いリンクは二重母音や拗音を意味します）。

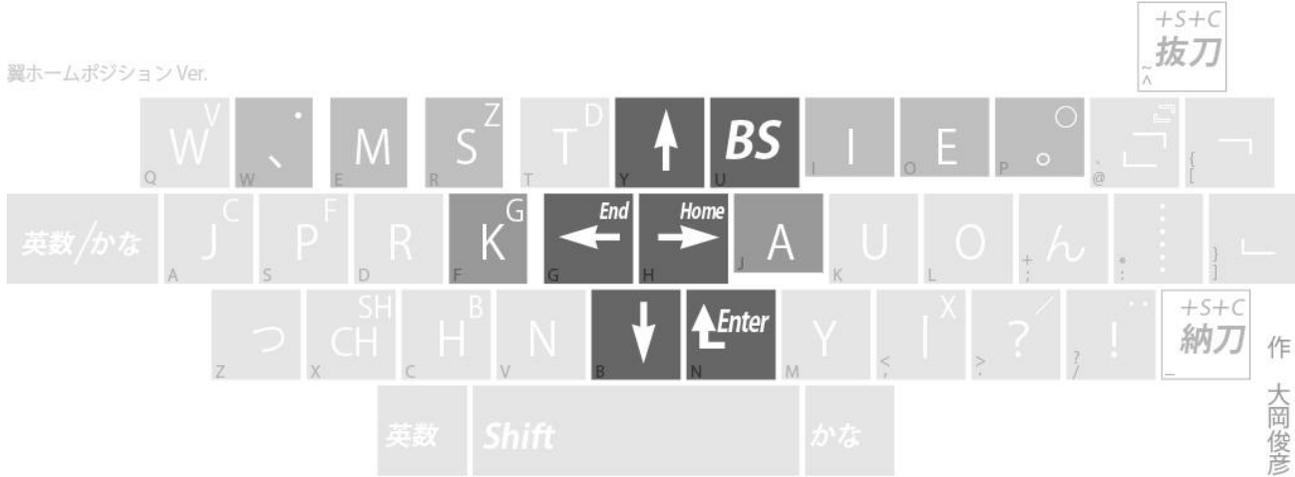


付録2 カタナ式シール

物語を書くための配列

カタナ式

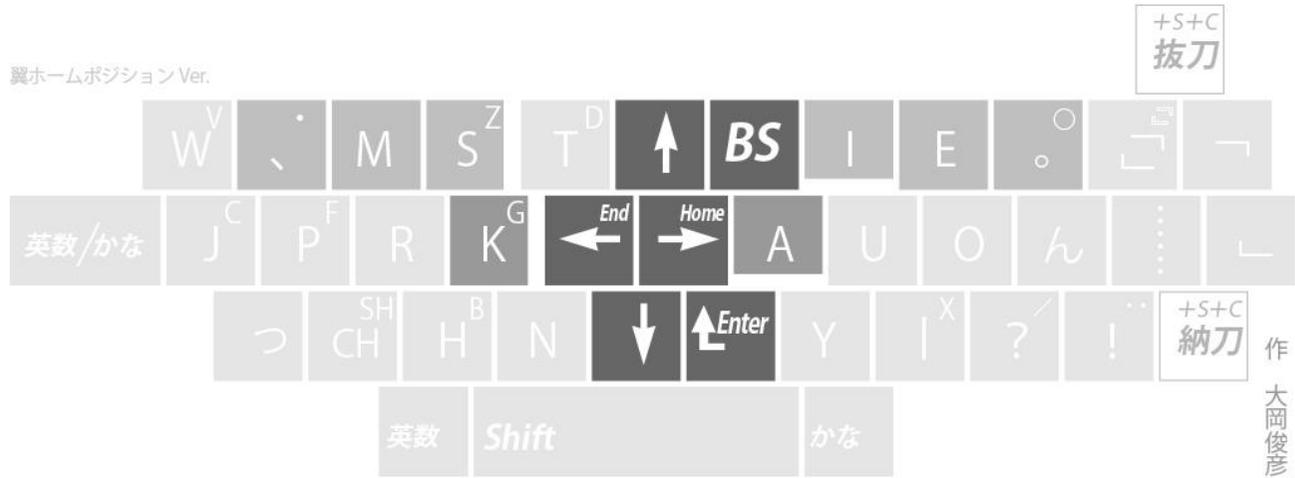
作 大岡俊彦



物語を書くための配列

カタナ式

作 大岡俊彦



適宜拡大縮小してプリントアウトしてください。QWERTY 併記ありなし／翼ホームポジションの8キー欠きか4キー欠きかの違いです。

○用意するもの……カッター、貼ってはがせる糊

- 1 プリントアウトしたものをカッターで切り抜き、キーボードに貼って下さい。
- 2 翼ホームポジションの4キーに、カッターや彫刻刀で線を入れたり、やすりで削るなどして立体的な手掛かりを作して下さい。ブラインドタッチの時は便利です。
左手のSKは内側（キーの右端）、右手のAIは下側に手がかりがあるとよいですよ。
- 3 紙を貼ることで手触りが変わるのが嫌な人は、キーを直接入れ替えたり（ノーパソなどのパンタグラフ式なら外すのは容易）、サンドペーパーで削ってマジックで書くなどして下さい。
- 4 安価なキーボードを購入し、カタナ式にキーを入れ替えた新キーボードと旧 QWERTY キーボードを二枚使い分ける手もあります。バッファロー社の BSKBB22 (白) は ¥ 1500 程度で買えるBluetoothウースキーボードなので、捨てるつもりで試すのもアリ。ちなみに筆者はこれを愛用しています。

おまけ 先行方式との比較

日本語入力 of 歴史は、長いようで短い。トロンキーボードやM式キーボードなどの優れたハードウェアを作っても、すぐに市場原理の波（制作コストと普及率というハード的要素と、新しいものに慣れるのはしんどいという心理的要素）にさらわれ、QWERTYキーボードという、日本語入力には不合理な方式をのまざるを得ない（一方スマホなどの新システムでは、フリック入力やフラワー入力＋予測変換などの革命的方式がある）。QWERTY配列がなくならないのは、おそらくは誰もが「一回覚えてしまったものをもう一度学びなおすのは面倒だ」と思っているからだ。「二回目の学習は初めてよりも習得速度が速い」という経験則があるにも関わらずだ。まるで負の連鎖である。

有志達が、QWERTYキーボード使用のまま、ソフト的にキー配列を変更してこの問題を解決しようと試みてきた。誰もが、QWERTYが日本語入力のベストとっていない証拠だ。

先行者には、「カナ入力派」と「ローマ字入力派」の二大派閥がいる。

カナ入力は、一音一打鍵が魅力だ。一方、覚えるキーが多すぎる（五十以上）。

ローマ字入力は、一音二打鍵（時に以上）と非効率だが、キーは少ない（二十ちよい）。一長一短。最適解はない。

本式にローマ字入力を採用した理由は、ローマ字入力をすでに「覚えさせられた」人が多いと考えたからである。練習量が少なければ、移行も楽だろうと踏んだ。

カナ入力に関しては、各様式を列挙するに留めておく。ニコラ配列（いわゆる親指シフトで、愛用者も多い）、中指ニコラ、月配列（2ちゃんで練られたもの）、下駄配列（中指シフト）、新下駄配列、小梅配列、花配列、飛鳥配列など。四段使うか、三段におさめるかで大きく二派にわかれ、シフトのやり方でも分派があるようだ。

ローマ字入力には、AZIK配列、Phoenix配列、mykey配列、M式配列、SKY配列、ロマかな配列、きゅうり配列、きゅうり改、さくら配列、和ならべ配列、やつがしら配列、いぬふぐり配列、Km式配列、けいならべ配列、カナガワ配列、つばめ配列、ひばり配列、すずめ配列、MOZ配列など、沢山の方式が乱立している。

QWERTYから配列を変えないもの（AZIK：独自ローマ字に拡張することで打鍵効率をあげる）は少数派で、殆どは「母音と子音をわけて再配列する」ことを考えているようだ。つばめやひばりはたった一列で、ロマかなは左右人差し指を母音であとは子音に、などの特殊なもののをのぞき、ほとんどは「左手子音・右手母音」を採用している。直観的だ

からだと思う。

僕が疑問に思うのは、ホームポジションの考え方だ。横一列に打鍵頻度が揃うことが、「長時間使える効率の良い配列」ということだろうか？ どの先行者も一律に、ピアニストのような指使いを前提にし、そこからの統計にばかり意識を取られている（これに異を唱えているのはMOZ配列のみだ）。僕はピアニストじゃないので、これがずっと気にかかっている。

また先行者のどれも、カーソルやリターンやBSの配置には無頓着に最適化を目指しているようだ。リターンやBSを右小指「;」位置に持つてくる工夫はあっても、カタナ式ほど大胆に操作系を中心に据えたものはない。日本語は、変換確定してはじめて日本語になるし、ああでもないこうでもないという作業を重ねることこそ重要と、僕は考える。

本式の独自性は、中心の操作系、右手母音左手子音、翼ホームポジション、濁音ソフトで主要子音を6キーに絞ったこと、二重母音や拗音、子音のアルペジオ打鍵しやすい配置などである。これらの特徴は先行者にはない利点であると考え（なお、和ならば、やつがしら、いぬふぐり、Km式、市式仮配列が同様の五母音配列の模様。Yの配置は違うが）。

これまでの改変キー配列は、プログラマー発信が多かった。それは、プログラムという文字打ちの現場に一番いて、かつ改造スキルがあつたからだと思う。それゆえか、英語入力との互換性が考慮に入っている。カタナ式はそれを捨てることで、日本語特化に割り切った。使用想定者は、小説家か脚本家かライターだ。

他に論文や仕事メールなどに日本語打ちの需要があるかも知れないが、それは「カタナ横式」に役割を譲るとしよう。左利き用の「左カタナ式」も、近日リリース予定。またDvorakの知識がある人は、自分なりに改造してもらっても構わない。

あなたのことばが、なるべくストレスなく電子コードに置き換わること。このカタナが、その武器になれば幸いだ。

最後に、カタナ式で「カタナ式」と入力してもらいたい。右手母音・左手子音、頻出キーが中央にあること、左手のアルペジオ、変換と候補選択・決定。この配列の目指した理想の一連の流れが、このタイトルにこめられていることに気づくだろう。